

緒川村郷蔵について

1 令和4年度緒川村郷蔵調査

- ・調査概要：建造物の記録を残すため、図面作成調査を実施
- ・調査期間：令和4年9月22日～12月16日

2 今後の取り扱いについて

(1) 緒川村郷蔵の現状について

- ・町道の拡幅計画（4m→8m）があり、地元からも道路拡幅の要望が出ている。また、隣接して緒川児童館があるため、現在地での保存が難しい。
- ・建物の状態は屋根の雨漏りのため屋根の野地板や垂木が腐食し、また、柱や梁等も随所で腐朽や虫害が見受けられ、構造的に健全な状態であるとは言い難い。
- ・建物の状態が良くないため、曳屋工法での移築ができない。
- ・令和4年9月議会で郷蔵についての一般質問があった。郷蔵の建物の状態や、解体修理においても使用できる部材も少なく費用も多大になることなどから、現在のところ解体は避けられないと考えていると答弁した。

(2) 今後の取り扱い案

建物自体は解体。跡地利用として、郷蔵がもつ黒壁の景観を大事にし、郷蔵のあった場所に郷蔵で用いられた黒壁（下見板張り）を利用して旧道側に黒壁を模した黒い塀を立てる。

[理由・課題]

- ・建物の状態が悪く、解体修理にも多額の費用が必要となるため。
- ・緒川コミュニティセンター敷地内に移築する場所がないため。
- ・跡地に郷蔵がもっていた景観を残し、郷蔵があったことを残すため。

東浦町 緒川村郷蔵について

2022年9月
(株)魚津建築設計事務所

調査内容 目視による調査

木部 当初からこの場所に建って居たかは定かではなく使用されている木材の状態から見て古材を利用して組み建てられている
地棟丸太や登り梁丸太以外はすべて古材が使われており桁行き中央の梁丸太、及び妻登り丸太の位置が間仕切り壁位置と違い創建時は桁行き長い建物であった可能性は否定できず、三間スパン仕切りの部屋が並んだ蔵ではなかったかと推測される
右の間妻面には開口部の痕跡がある

二階の床組は間仕切りと同じく後補に増設されたと推測される。
一階床は使用目的に応じて改築されたと推測される。
左の間 建具には二本引きの痕跡があり 当初は土戸と板戸の二重の建具があったと推測され、右の間の建具は後補の改築時に改造されたと推測される。

壁 外壁面は本格的な土壁を塗り重厚な造りとなっており、内面は荷摺り板等の形跡がなく土蔵と言うよりは倉庫といった方が良い造りと推測できる。
外壁は土壁保護の目的でササラ下見板張りが施されている。
妻壁上部及び破風、鼻隠し部分は鋼板張りとして漆喰壁の保護をしている。

屋根 本瓦土居葺きで創建時の瓦が多数を占めているものの一部後補改築時の物と推測できる。
軒丸瓦は数珠掛け三つ巴、軒瓦は唐草模様入り
又、妻袖瓦の先端に文様付き瓦漆喰が施され台風対策が取られている。
軒樋は塩ビ半月型に近年改修されている。